

偶戯を巡る

「偶戯を巡る」は、人形遣い・人形美術家の長井望美と戯曲作家・演出家の藤原佳奈が人形芸能のルーツを辿る研究型芸術実践プロジェクトです。

2024年より「日本人形芸能の先祖ではないか？」と言われてきた東北の民間信仰「オシラサマ」を取材してきました。「オシラサマ」から見えてきた、「ヒト」と「ヒトガタ」の関係性。今回はボイスパフォーマンスの中ムラサトコと文化人類学者の山中海瑠を迎え、リサーチの成果を展示・パフォーマンス・オープンラボとして発表します。

オシラサマとは？

東北地方広域に古くから伝わる民間信仰の神です。木樺上部に頭を彫り、布を重ね着された対の神像は、女性を中心に家庭内で信仰され、多様な姿形や信仰様相の広がりをみせます。民俗学者の柳田國男が『遠野物語』で紹介したことで知られています。「オシラサマアソバセ」と呼ばれる儀式から、人形芸能の元祖的な姿なのではないかと
言われてきました。

展示

2月21日[土]-3月22日[日] 10:00-18:00

「オシラサマ」の取材旅を写真、絵、語りなどで巡る展示

会場 | 世田谷美術館地下廊下 観覧無料

※休館日：毎週月曜日(2月23日[月])は閉館、ただし2月24日[火]は休館。

オープニングトーク

オシラサマを巡る旅のはじまり

プロジェクトメンバーと担当学芸員によるトーク。企画の経緯や取材秘話、創作プロセスなどをお話します。

2月21日[土] 15:30-17:00

出演 | 長井望美、藤原佳奈、山中海瑠、世田谷美術館学芸員

会場 | 世田谷美術館1階講堂 定員 | 140名 参加費 | 無料

パフォーマンス

「オシラサマ」は、主婦や巫女など女性を中心に多様な信仰の広がりを見せてきました。取材を元にしたレクチャー、人形パフォーマンス、語りと歌で多層的に構成し、「ヒト」と「ヒトガタ」の信仰や、その関係性を掘り下げる上演を試みます。終演後、アフタートークも行います。

3月20日[金・祝] / 3月21日[土] 各日14:00-(開演13:30)

出演 | 長井望美、藤原佳奈、中ムラサトコ

会場 | 世田谷美術館1階講堂 定員 | 各日100名程度

各日 一般3,000円 / 学生2,500円 / 中高生2,000円

小人(3歳以上)1,500円

※公演70分程度、アフタートーク30分程度を予定。

偶戯を巡る

「偶」とはヒトガタ・人形、「戯」とは遊び・演劇の意。人が人形をつくり、それをあやつり、他者に示す営み「偶戯」(ぐうぎ)を巡り、取材、報告、創作上演を重ねるプロジェクト。こども部屋の人形遊びから出発し、「人間の生命を映す友人、人形」と旅を続ける人形遣い・人形美術家の長井望美と、様々な場所で「劇場」の機能を思考し、実践を重ねる戯曲作家・演出家の藤原佳奈が2024年より活動開始。

✕ @guugiwomeguru

報告ノート(note)

◎ @guugiwomeguru

<https://note.com/guugiwomeguru>

世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区松宮1-2 Tel. 03-3415-6011(代表)

<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

◎ @setagayaartmuseum @setabi.performance

ミュージアム コレクション 特別展 開館40周年記念

世田谷のあしあと——暮らしと美術のあいだで

2026年2月21日[土]-4月12日[日]



【交通案内】

東急田園都市線「用賀」駅下車 北口から徒歩17分

もしくは、美術館バス①「美術館」下車徒歩3分

小田急線「成城学園前」駅下車 南口から渋谷駅バス②

「 station」下車徒歩10分

小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行きバス③「美術館入口」下車徒歩5分

東横線「世田谷駅」(60台、無料) 東名高速道路高架下、厚木方面側400m先、美術館まで徒歩5分

世田谷美術館ウェブサイトより

[予約開始]

2026年1月16日(金)10:00(予定)

